

一般質問

ごみ問題

一般廃棄物最終処分場
整備拡大の考えは？

(自民クラブ)

問

ごみ問題は年々深刻化しつつある。市内には、一般廃棄物最終処分場が4施設あるが、あらゆる物が最終処分場で処分されるとなると、予定より早く最終処分場の残容量が少なくなることが危ぶまれる。

現在、新たな一般廃棄物最終処分場の建設が計画されている。残容量等を踏まえ、西部地区にも建設されることが望ましいものと考えているが、どのように考えているか。

答

現在は合併前の2市2町がそれぞれ保有していた、船屋・東予・丹原・小松の一般廃棄物最終処分場4施設を管理運営しているところである。

各施設の埋立て容量と、それに対する平成17年度末のそれぞれの残容量は、船屋では、容量2万545立方メートルが満杯状態となっており、東予では、容量7万立方メートルのうち52パーセント、丹原では、容量1万6,000立方メートルのうち83パーセント、小松では、容量2万2,269立方メートルのうち7パーセントの残容量となっている。現在、船屋一般廃棄物最終処分場が満杯状態であるため、新しい処分場の建設に向けて準備を進めているところであるが、今後、西条市全体として新しく整備する一般廃棄物最終処分場や、現有施設の残容量及び市内から発生する埋め立て廃棄物の排出量等を総合的に判断し、国・県とも協議しながら、適切な廃棄物処理施設の整備を検討したい。

一般廃棄物最終処分場の長期使用については、非常に重要な課題としてとらえており、今後、バイオマス関連技術の導入なども視野に入れ、埋め立て廃棄物の減量化と、処分場の長期有効利用を図れるような方策を検討していきたい。

医療

どう考える？
産科医療の現状と対策

(リベラル西条)

問

少子化の進行を背景に、産科医は、深夜の出産など緊急呼び出しが多いうえ、拘束時間も長く、肉体的・精神的負担が大きい過酷な勤務であることや、医療事故訴訟が他の診療科に比べ多いこともあり、医師数が減少している。

市内の産科医の現状や、今後の対応、さらには市立周桑病院の産婦人科の充実についてはどのように考えているのか。



次代を担う新しい命

答

少子化対策を推進するうえで、地域で安心して出産できる体制の確保が重要であると認識している。

市内の産科病床数は、1病院3開業医の4か所に計59床あり、これらの医療機関での1か月の出産受け入れ可能人数は約100人と聞

道路

西条久万線の改良と
西之川・土小屋間の見直しは？

(自民クラブ)

問

県道西条久万線に対する県の改良事業費が平成12年度から18年度で10分の1に激減しているが、県に対する要望はどう行なっているか。西之川・土小屋間の見直しと事業促進のための残土置き場の確保はつづけているか。

答

県の西条久万線改良事業予算は、平成12年度約10億5,400万円から平成18年度には1億1,100万円になっているが、この間の県全体の県単道路改良事業予算が582億円から109億円に縮減していること、平成18年度西条市管内の同予算2億2,381万円の内、約42パーセントの1億1,100万円を本路線に投入していることから、県は厳しい財政状況の中でも努力しているものと認識している。

県に対する重要施策の要望が3項目に限られたため、合併後、重要施策の要望としては求めているが、個別案件として機会あるごとに要望している。土小屋までの見直しも厳しい環境であるが、粘り強く要望していきたい。

残土置き場についても、円山は平成18年度で満杯になるが、適当な場所が見つかっていないため、県へ検討をお願いしている。



船屋一般廃棄物最終処分場